

教科名	科目名	履修学年	履修区分	単位数
国語科	国語	3学年	必修	2

科目の目標	国語を的確に理解し適切に表現する能力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。
使用教科書	高等学校新国語 改訂版(大修館書店)
副教材など	「ベネッセ全訳古語辞典」(ベネッセ) 「よくわかる新選古典文法」(東京書籍) 「常用漢字クリア」(尚文出版)
業方法および形態	<ul style="list-style-type: none"> ・総合生活科全員が選択します。 ・授業は組固定で行います。 ・現代文と古文、漢文の教材をまんべんなく取り扱います。 ・発表を中心とした授業にしていく予定です。
授業評価の方法	定期考査と観点別評価(平常点)を総合します。 観点別評価は、日ごろの授業中の態度(欠席、遅刻、居眠り、忘れ物、発言の回数等)、提出物、宿題などから判断します。
定期考査	教科書は授業で進んだ範囲、宿題や小テストの範囲から出題します。ただし、文法に関しては1年次から学習したすべてを対象とします。
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を欠席しないようにし、忘れ物が無いようにしてください。 ・授業には教科書・ノートを必ず持参してください。(他は教材に応じて指示を出します。) ・チャイムが鳴る前に全員着席し、授業開始前に机上に必要な道具を準備しておいてください。
教科担当より一言	この授業は現代文、古文、漢文を取り混ぜて幅広く学習していくことになります。予習・復習を確実に行き、読解力をつけていきましょう。1、2年生で学習してきた内容が基礎になります。各自で確認をしていきましょう。

学期	月	学習内容	課題等
一 学 期	4	現代文編・随想「絶対値」内館牧子	「現代文」随想 著者のものの見方、感じ方や主題を正確に読みとり、それについての自分の感想や意見を持つ。 「現代文」小説 小説の構成、登場人物の性格や心情に注意し、読み味わう。 「現代文」評論 論理的な文章を読み解き、筆者の主張を理解し、それに対する各自の意見を持つ。 「現代文」詩 詩の形態や文学史を確認する。 「古文」 様々な教材を通して、昔の人の考えかたや、習慣、歴史的背景などを確認する。 「漢文」 基本的な句形を学び、漢文の読解力を養う。繰り返し音読することにより、漢文の持つリズムや雰囲気を感じ取る。中国文学への興味、関心を引き出し、理解を深める。
	5	古文編・土佐日記「門出」	
	6	現代文編・小説「チャンピオン」内海隆一郎	
	7	古文編二、大鏡「競べ弓」	
	9	古文編二、大鏡「三船の才」	
	10	現代文編・詩 「金星」三好達治	
	11	漢文編・中国の史話「先從隗始」	
二 学 期	12	現代文編・評論「生物の予感」大場みな子	
	1	古文編・枕草子 「雪のいと高う降りたるを」	
三 学 期	1	現代文編・小説「名人伝」中島敦	
	2		
	3		

教科名	科目名	履修学年	履修区分	単位数
地理歴史科	日本史 A	3年次	必修	2

科目の目標	原始・古代から近世までの日本の歴史の展開を中心に、世界史的視野に立って総合的に考察し、日本の文化と伝統の特色について認識を深めることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる人間としての資質を養っていききたい。
使用教科書	『新日本史A』改訂版（清水書院）
副教材など	『日本史A研究ノート』福岡県高等学校歴史研究会編
授業方法および形態	教科書の内容を中心に板書しながら進めていきます。必要に応じて資料集などの視聴覚教材やプリントを補助教材として利用します。
授業評価の方法	中間・期末などの定期考査だけでなく、授業中の態度、出席状況、提出物の状況などを含めた様々な観点から総合的に評価します。
定期考査	授業に沿った内容で行い、教科書、ノートを中心とするが、授業中活用した資料、プリント、研究ノートなどからの出題します。
履修上の注意	教科書やノート、研究ノートなどの必要なものは準備しておくこと。
教科担当より一言	授業中、積極的に発言し、意欲を持って授業に参加して下さい。授業中の居眠り、内職、私語、忘れ物などは大きく成績に反映していき、また厳しく注意していきます。2単位と時間数は少ないですが、日常から興味を持ち、日頃の予習復習はしっかりと行うよう努力して下さい。

学期	月	学習内容	課題等		
一 学 期	4	第1編 古代・中世の日本とアジア 第1章 古代国家の形成と大陸文化の摂取 1 原始社会 2 古代国家の形成/貴族政権と武士の台頭 3 日本古代の国際環境と文化	自然環境や大陸からの文化からの影響による生活の変化に着目する。国家の形成と律令体制の確立、東アジア世界との交流に着目する。荘園・公領の動きや武士の台頭など地方の動きに着目する。		
	5	第2章 中世社会の展開とアジアとの交流 1 武家政権の成立と南北朝の分立 2 民衆生活の発展と室町幕府 3 東アジア世界と中世の日本/仏教と文化			
	6	第2編 近世の日本と19世紀の世界 第1章 統一政権の成立と鎖国 1 ヨーロッパ人の来航と織豊政権 2 幕藩体制社会の成立と鎖国			
	7	第2章 幕政の展開と近世の社会と文化 1 幕政の改革 2 産業の発達と都市 3 学問の発展と町人文化			
	二 学 期	9		第3章 国際環境と幕藩体制の動揺 1 外来船の来航と開国要求 2 社会の変化と百姓一揆 3 幕府・諸藩の改革	幕藩体制下での経済機構や交通・技術の発展、都市の繁栄に着目する。
		10		第4章 新思想の展開と教育の普及 1 化政期の文化/新しい学問と思想	
		11		第3編 近代日本の成立と発展 第1章 開国と明治維新 1 開国とその影響・攘夷から討幕へ 2 明治新政府の成立/地租改正と殖産興業 3 明治初期の外交問題 4 欧米文化の導入とその影響	
12		第2章 近代国家の成立と対外戦争 1 士族の反乱と自由民権運動 2 自由民権運動の激化と衰退 3 立憲政治の成立 4 日清戦争/日露戦争/満州支配			
三 学 期	1	第3章 近代産業の発展と国民の生活 1 資本主義の確立と政党 2 都市と農村/明治の文化	欧米諸国のアジアへの進出、学問・思想および産業の新たな展開に着目する。		
	2	第4章 現代の社会と日本 第1章 戦後改革と国民生活の変化 第2章 国際社会の動向と経済の発展			
	3			戦後日本における戦後改革・国民生活の変化・経済の発展に着目する。	

教科名	科目名	履修学年	履修区分	単位数
保健体育科	体育	3年次	必修	2

科目の目標	各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。
使用教科書	マイスポーツ総合版(大修館書店)
副教材など	
授業方法および形態	総合生活科は、2クラス合同で行う。 1単位は、主に選択制授業を実施する。 もう1単位は、主に男子柔道、女子ダンスを実施する。
授業評価の方法	各種目の技術、授業態度、意欲、協調性、出席等を総合的に判断して評価する。
定期考査	各種目の後半や、定期的の実技テストを実施する。
履修上の注意	
教科担当より一言	実技なのでまず出席することが重要です。一生懸命取り組む態度を評価します。

学期	月	学習内容	課題等	
一 学 期	4	集団行動、体力テスト	持久走は、必ず5回走ること。	
	5	男子 ソフトボール 女子 バレー ボール・テニス・バスケットボール から選 択。		
	6	1単位 男子 柔道 女子 ダンスを実施する。 前期選択制授業 水泳 クロール・平泳ぎを習得する。		
	7	”		
	二 学 期	9		体育大会練習 1単位 前期選択制授業 1単位 男子 柔道 女子 ダンスを実施する。
		10		男子 バスケットボール・サッカーから選択。 女子 バスケットボール・バレーボールから選 択。
		11		1単位 持久走 1単位 男子 柔道 女子 ダンスを実施する。
12		1単位 後期選択制授業 1単位 男子 柔道 女子 ダンスを実施する。		
三 学 期	1			
	2			
	3			

教科名	科目名	履修学年	履修区分	単位数
家庭科	課題研究	3年次	必修	4

科目の目標	家庭の各分野に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を養う。
使用教科書	
副教材など	
授業方法および形態	課題ごとに班別学習をする。 平成15年度 研究班 食物調理技術検定班 被服製作班 現場実習班 検定取得班 点字・手話班
授業評価の方法	定期考査、提出物、毎回の実施報告書 出席、興味、関心、意欲等を総合的に判断して評価する。
定期考査	定期考査は、その学期に行なった課題の報告、反省、感想を中心に出题する。
履修上の注意	自分の興味関心のある内容を選択すること。
教科担当より一言	個人（グループ）による研究が中心です。教師の側からは、助言しますが、基本的に計画的に進める事が重要です。 科目の目標にもあるように問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を身につけられるように努力してください。

学期	月	学習内容	課題等	
一 学 期	4	個人目標の決定 課題の解決に向けて学習を開始する。	期末考査	
	5	↓		
	6			
	7			1学期のまとめ
二 学 期	9			課題の再点検 課題の解決に向けて学習を進める。
	10	↓		
	11			
	12		課題研究発表会の準備	
三 学 期	1		課題研究発表会の準備 課題研究発表会 1年間のまとめ	
	2			
	3			

教科名	科目名	履修学年	履修区分	単位数
家庭	被服製作(系選択群)	3年次	選択	4

科目の目標	体型と被服、被服の立体構成と平面構成、縫製に関する理論と技術などについて、専門的な知識と技術を習得させ、適切な材料や用具を活用して、被服を能率的、美的に製作できるとともに着ることができる能力と実践態度を育てる。
使用教科書	「被服」(実教出版)
副教材など	家庭科問題集(被服編)・プリント
授業方法および形態	総合生活科服飾デザイン系を対象に講義及び実習を行う。
授業評価の方法	定期考査、作品の提出物、出席、興味、関心、意欲などを総合的に判断して評価する。
定期考査	講義の分野の内容 実習に関する内容 ○実技試験を行う場合もある
履修上の注意	提出期限を守る。遅刻・欠席をしないこと。 用具の取り扱いに注意する
教科担当より一言	日頃から、社会の出来事に関心を持ち、雑誌、市場散策、芸術鑑賞等で感性を豊かにする努力してほしい。

学期	月	学習内容	課題等	
一 学 期	4	○パンツ製作 パンツの種類と名称を押さえる。 ファッションショーに向けてデザインと材料の選定をする。	着用目的、着用者の個性、流行など配慮しスタイル画を書く。 パンツの材料購入 実習記録 1/4縮尺で基本的ジャケットの製図 ジャケットの材料購入 実物大の型紙作成 実習記録	
	5	パンツの製図、用布の見積もり、地直し、裁ち方など能率的、経済的に行う。 仮縫いで自分の体型を知り補正の仕方を理解する。 本縫い ・材質に応じた糸、針、縫い代の始末、仕上げ方法を理解する。		
	6	仕上げ、着装、反省を行う。		
	7	○総裏ジャケットの製作 ジャケットの種類、名称を押さえる。 製図は、既製の型紙を利用して能率化を図る。 期末考査 ジャケットの用布の見積もり、地直し、裁断、適切な芯、裏地の選択について理解する。		
	二 学 期	9		仮縫い ・補正の仕方、体型の特徴と変化について理解を深める。
		10		本縫い ・縫い方、くせとり、縫い代の始末を理解する。 ・適切な用具の活用について理解する。 ・ポケットの部分縫い
		11		・身頃部分の完成
12	期末考査 ・袖作り 袖のくせとりで、立体構成と平面構成の違いを理解する。 ・袖付け ・裏地の始末			
三 学 期	1	仕上げ、着装、反省 期末考査	1年間の反省	
	2			
	3			

教科名	科目名	履修学年	履修区分	単位数
家庭科	服飾デザイン(系選択群)	3年次	選択	4

科目の目標	服飾の変遷、服飾デザインなどに関する知識と技術を習得し、服飾をデザインする能力と態度を養う。
使用教科書	高等学校用服飾デザイン(文部化学省) 被服(実教出版)
副教材など	なし
授業方法および形態	総合生活科3年服飾デザイン系で行う。 講義および演習、実習を行う。
授業評価の方法	定期考査、課題の内容、及び提出状況。実習科目なので出席に比重を置いて評価する。
定期考査	期末考査のみ行う。 実技問題を出題することもある。
履修上の注意	服飾デザインの専門科目、2年次に引き続いて履修する。
教科担当より一言	専門科目であり実習が多いため、特に欠席しないようにしましょう。、また、提出日をきちんと守りましょう。

学期	月	学習内容	課題等
一 学 期	4	転化的な装飾 トリミング・フリル ファンクションショーの企画と運営	スタイル画
	5		自由作品提出
	6	ブラウスのデザイン スタイル画作成 パターンメイキング制作	期末考査
	7	技術検定被服製作2級の準備 技術検定被服製作2級	技術検定被服製作 2級受験
二 学 期	9	服飾デザインの発想と表現 デザインの演習	デザイン画提出
	10	色彩 明度・彩度 色とイメージ	色彩課題提出 色彩課題提出
	11	配色の基本と調和 流行色と基本色	期末考査 色彩課題提出
	12	服飾の変遷 服装のルーツ(古代オリエントギリシャ) 服装のルーツ(ギリシャルネサンス)	
三 学 期	1	服装のルーツ(ルネサンス現代) 和服の変遷	学年末考査
	2		
	3		

教科名	科目名	履修学年	履修区分	単位数
家庭科	調理(系選択群)	3年次	選択	4

科目の目標	献立と調理、集団給食などに関する知識と技術を習得し、食生活の向上を図る能力と態度を養う。
使用教科書	新食物(教育図書)
副教材など	食物実習ノート 調理BOOK
授業方法および形態	総合生活科食物系で行う。実習は1班4名。 毎週2時間は調理実習を取り入れる。 実習の説明と実習後のまとめを必ず行う。 使用した食品、操作上の留意点についても触れ、適切な取り扱いができるようにする。
授業評価の方法	定期考査、提出物、出席、興味、関心、意欲などを総合的に判断して評価する。
定期考査	定期考査は、調理実習の内容とそれぞれの調理理論に基づき出題する。
履修上の注意	なし
教科担当より一言	調理実習が中心となるので毎回の出席が重要である。準備から後かたづけまで、調理は体験学習なので自主性を持って積極的に行動するよう心がける。 様式別の盛りつけ型、器の選び方、食卓作法の基本をふまえ創意工夫ができるようにする。 班員それぞれの協力も大切である。

学期	月	学習内容	課題等	
一 学 期	4	調理の基本 実習 筍ご飯、菜の花焼、草団子 炒飯、中華風蒸しパン、鶏の唐揚げ		
	5	ホットサンド、シュークリーム 春巻き、芙蓉蟹、中華サラダ 文化祭に向けての食品バザー		
	6	巻き寿司、いなり寿司、吸物 あさりの酒蒸、スコッチエッグ 乾焼明蝦、焼売、酢物 スパゲッティ、フルーツサラダ		
	7	期末考査 南蛮漬け、そうめん カレールーを使って		
	二 学 期	9		三色おはぎ、飛龍頭、吸物 ピロシキ、ロシアンティー 中華おこわ、さつまいものあめがけ
		10		ビビンバ、わかめスープ 山菜御飯、吹き寄せ シチュー、パン、モンブラン 鯖の幽庵焼き、けんちん汁、茶饅頭
		11		フジヤ和入、珍珠丸子、ゴマ団子 クリームコロケ、チーズケーキ 赤飯、空也蒸し、角煮
12		期末考査 行事食について 日本料理の特徴と食文化について		
三 学 期	1	1年間のまとめ これからの食生活について 期末考査		
	2			
	3			

教科名	科目名	履修学年	履修区分	単位数
家庭科	栄養(系選択群)	3年次	選択	2

科目の目標	栄養素の機能と代謝、年齢や生理と栄養などに関する知識を習得し、健康の保持増進を図る能力と態度を養う。
使用教科書	食物(実教出版)
副教材など	カラーグラフ食品成分表(実教出版)
授業方法および形態	総合生活科3年の食物系で行う。 講義中心であり、教室での授業が多い。
授業評価の方法	中間考査、期末考査、課題プリント、態度、出席、興味、関心、意欲などを総合的に判断して評価する。
定期考査	中間考査、期末考査を実施する。講義内容から出題する。
履修上の注意	食物系の専門科目である。3年で履修する。
教科担当より一言	栄養に関する知識を献立や調理に生かすことができるように意欲的に授業に参加してください。

学期	月	学習内容	課題等
一 学 期	4	第2章 健康と栄養 食物と栄養 栄養素 栄養素の性質と代謝	
	5	1. 炭水化物 2. 脂質	
	6	3. たんぱく質 4. 無機質	
	7	5. 水 6. ビタミン	
二 学 期	9	食物の摂取と消化吸収 1. 食欲と食事 2. 消化とそのしくみ 3. 吸収と排泄 日本人の栄養所要量	各消化器官の名称、 仕組みを図で表す 献立作成、実習
	10	1. 栄養所要量 2. 日本人の栄養所要量の算定 3. 食品群と栄養所要量を満たす食品構成 栄養状態の評価	
	11	1. 個人の栄養状態の評価 2. 集団の栄養状態の評価	
三 学 期	12	年齢と栄養 1. 乳児の栄養 2. 幼児の栄養 3. 学童の栄養	献立作成、実習
	1	4. 青年の栄養 5. 成人の栄養 6. 高齢者の栄養 労働・スポーツ、母性の栄養	
	2	1. 労働と栄養 2. スポーツと栄養 3. 妊婦の栄養 4. 授乳婦の栄養	
	3	栄養障害 病人栄養	献立作成、実習

教科名	科目名	履修学年	履修区分	単位数
家庭科	食品(系選択群)	3年次	選択	2

科目の目標	食品の分類とその特徴、食品の加工と貯蔵、食品の生産と流通に関する専門的な知識や技術を習得し、多様化する食品や食生活に対応して食品の選択と活用を適切に行い、食生活を充実向上させる能力と実践的な態度を養うことを目標とする。
使用教科書	食物(実教出版)
副教材など	食品成分表
授業方法および形態	総合生活科3年食物系 講義は、教室で行う 実習は調理実習室にて、1班4名で行う
授業評価の方法	定期考査成績、出席状況、提出物の提出状況、授業態度等に基づいて、興味、関心、意欲等を総合的に判断して評価する。
定期考査	各学期とも、授業の進度に応じて中間考査、期末考査を実施する。
履修上の注意	実習の際は、爪を切り、エプロンや三角巾をきちんと着用して衛生的に行う。また、ガスや包丁、熱湯などの扱いにも十分に注意をして安全に行う。
教科担当より一言	より良い食生活をおくるために、加工食品の選び方や使い方を適切にすることや手作りの加工品や調理の工夫などを心がけてほしい。 また、季節感のある食べ物や郷土の味などを上手に利用して食文化を伝承しましょう。

学期	月	学習内容	課題等
一 学 期	4	食品の加工と貯蔵 1、食品の生産と流通 2、食品の成分・品質 3、食品の貯蔵 4、食品の加工法	実習の都度、実習記録を提出
	5	5、加工食品 (1)牛乳の加工品(バター) 季節の加工品(梅ジュース 梅干し)	
	6	中間考査 (2)卵の加工品(マヨネーズ) (3)魚介類の加工品(でんぷ) 季節の加工品(らっきょう漬け 梅干し)	
	7	期末考査 (4)獣鳥肉類の加工品(薫製 ソーセージ)	
	7	(5)豆類の加工品(みそ 豆腐 きな粉) 季節の加工品(トマトピューレ トマトチップ)	
二 学 期	9	(6)野菜類の加工品(ピクルス)	実習の都度、実習記録を提出
	10	(7)いも類の加工品(ポテトチップス)	
	11	(8)くだものの加工品(ジャム)	
	12	中間考査 (9)穀物の加工品(パスタ せんべい)	
	12	期末考査 (10)油脂類の加工品 (11)調味料 (12)香辛料 (13)嗜好品 (14)新しい特殊加工食品 季節の加工品(キムチ)	
三 学 期	1	6、家庭での食品加工と貯蔵 7、食品の多様化とその選択 学年末考査	
	2		
	3		

教科名	科目名	履修学年	履修区分	単位数
福祉科	老人介護（系選択群）	3年次	選択	2

科目の目標	老年期についての正しい理解を基礎として、老人に対する望ましい態度を身につけるとともに、介護と福祉の両面から老人のニーズに応えられる援助ができる技術を学ぶ。
使用教科書	ホームヘルパー養成研修テキスト2級課程
副教材など	
授業方法および形態	総合生活科福祉系を20名以下のグループに分けて講義および実習を行う。
授業評価の方法	定期考査・小テスト・実技テスト・実習記録・出席・興味・関心・意欲等を総合的に評価する。
定期考査	定期考査は授業の進度に沿った内容のテストを行う。実習で習得した介護技術を紙面で説明できるように指導し、考査に備える。
履修上の注意	
教科担当より一言	地域での、福祉や介護に関する催しなどに積極的に参加して、老人と接する機会を自らつくり、理解を深めて下さい。

学期	月	学習内容	課題等
一 学 期	4	老人介護概論	加齢による心身の変化を理解する
	5	介護技術 ・ベッドメイキングの方法 ・身体の清潔（洗顔・清拭・口腔の清潔等）	身近にある物品の工夫でベッド上での清拭や洗髪ができることを学ぶ
	6	・食事介助の方法 ・排泄・尿失禁（オムツ）の介助	体験を通して介護を受ける人の立場を学ぶ
	7	・衣類の着脱の介護 ・入浴の介護	利用者の安全、安楽の重要性を学ぶ
	9	・体位、姿勢変換の介護 ・ボディメカニクスの原理	ボディメカニクスを理解し、利用者の安全、安楽とともに、介護者の健康管理や作業効率についても学ぶ。
	10	・車椅子への移乗、移動の介護 ・視覚障害者の歩行などの介護	
	11	・緊急時の対応 ・褥瘡の予防	
二 学 期	12	介護事例検討 ・高齢者介護事例 ・障害者介護事例	事例を通して介護の過程と評価を学ぶ。カンファレンスの進め方等も体験する。
	1	終末期の介護 ・終末期の変化と介護 ・臨終時の介護と死後の処置	死に行く人、残された人の満足のいく介護とは何かを考える。
三 学 期	2		
	3		

教科名	科目名	履修学年	履修区分	単位数
福祉科	社会福祉援助技術(系選択群)	3年次	選択	2

科目の目標	対人援助に関する知識と技術を習得し、社会福祉援助活動に活用する能力と態度を養う。 社会福祉に関する基礎的な知識を習得して、現代社会における社会福祉の意義や役割を理解する。
使用教科書	ホームヘルパー養成研修2級テキスト
副教材など	なし
授業方法および形態	総合生活科3年福祉系で行う。2班に分かれて授業を行う。 講義主体であるが、必要に応じて実技を行う。
授業評価の方法	期末考査、課題の提出、出席、興味、関心、意欲などを総合的に判断して評価する。
定期考査	期末考査のみ実施する。授業に沿った内容から出題する。
履修上の注意	特になし
教科担当より一言	福祉に関連する進路を選択している人はもちろん、そうでない人にとっても、これからの社会では福祉の知識や技術が大事になってくると思います。きっと役立つ勉強ですので一生懸命話を聞いて下さい。

学期	月	学習内容	課題等
一 学 期	4	福祉サービスの基本視点	
	5	社会福祉の制度とサービス (1) 老人福祉の制度とサービス	
	6	(2) 障害者(児)福祉の制度とサービス	
二 学 期	7	ホームヘルプサービスについて	
	9	福祉サービス利用者の理解 (1) 高齢者、障害者(児)の心理	
	10	(2) 高齢者、障害者(児)等の家族の理解	
三 学 期	11	個別援助技術について (1) 相談援助について (2) ケア計画の方法について	
	12	(3) ケア計画の作成と記録、報告の技術	
	1	集団援助技術について	
	2		
	3		

教科名	科目名	履修学年	履修区分	単位数
福祉科	社会福祉実習(系選択群)	3年次	選択	2

科目の目標	介護等に関する体験的な学習を通して、総合的な知識と技術を習得させ、社会福祉の向上を図る実践的な能力と態度を育てる。 また、ホームヘルパー養成研修2級課程の一部を実施することにより、ホームヘルパーに従事できる人材の育成を目指す。
使用教科書	ホームヘルパー養成研修テキスト2級課程
副教材など	特になし
授業方法および形態	総合生活科3年福祉系で行う。1クラス18名を基準にクラス編成を行う。 講義、校内実習、施設実習等、授業毎に授業の場所、方法、形態が変わるので、日程把握や準備等、自己管理をきちんと行わなければならない。
授業評価の方法	中間考査、実習レポート、実習報告スピーチ、課題プリント、実習生として自覚ある服装や態度、出席、興味、関心、意欲などを総合的に判断して評価する。
定期考査	中間考査又は期末考査を実施する。主に講義内容から出題する。
履修上の注意	ホームヘルパー-養成研修学習授業に不出席の場合、研修は未終了。
教科担当より一言	校外での実習を受け入れてもらうためには、指導を受ける立場であることを自覚すること、常識のある言動が身につけていることが必要です。日頃から、校則や交通法規等に対する遵法精神を尊び、年長者に敬語で接することが自然にできるように心がけましょう。

学期	月	学習内容	課題等	
一 学 期	4	オリエンテーション ヘルパー研修2級について 講義 報告書について 実習施設についての理解		
	5	介護老人保健施設実習 講義 リハビリテーション医療の基礎知識 (ヘルパ-2級)		
	6	校内実習 壁面構成等 講義 住宅・福祉用具に関する知識 (ヘルパ-2級)		
	7	介護老人保健施設実習 講義 実習施設についての理解 ホームヘルパー同行訪問(ヘルパ-2級) 特別養護老人ホーム実習(ヘルパ-2級)		
	二 学 期	9		講義・実技 報告書の作成 報告会 夏休みの実習について 講義 リクリエーションについて 講義 住宅・福祉用具に関する知識 (ヘルパ-2級)
		10		実技 レクリエーションの計画 介護老人保健施設実習
		11		介護老人保健施設実習 実技 レクリエーションの準備・練習 報告文の作成
12		報告会 介護老人保健施設実習について 校内実習 レクリエーションの準備・練習 介護老人保健施設実習(レクリエーション) 実技 報告文の作成、お礼状の作成		
三 学 期	1	報告会 レクリエーションについて 年間反省		
	2			
	3			

教科名	科目名	履修学年	履修区分	単位数
看護科	看護基礎医学(系選択群)	3年次	選択	2

科目の目標	看護を行うために必要な医学に関する基礎的な知識を習得し、健康と疾病及びこれらと環境との関係について理解する。
使用教科書	看護基礎医学1・2(教育図書)
副教材など	ホームヘルパー養成研修テキスト 2級課程
授業方法および形態	総合生活科福祉系全員を対象に講義を行う。
授業評価の方法	定期考査、小テスト、出席、提出物、興味、関心、意欲等を総合的に評価する。
定期考査	定期考査は授業の進度に沿った内容のテストを行う。 単元・章・節などの節目に小テストを行い定期考査に備える。
履修上の注意	
教科担当より一言	看護・介護技術の根拠となる理論を学びます。 基礎看護や老人介護の技術にフィードバックさせて理解を深めて下さい。

学期	月	学習内容	課題等
一 学 期	4	障害・疾病の理解 ・人体の解剖整理 ・加齢による老化・痴呆	人体の各器官を構造と機能の両面から同時に理解し、臨床医学や看護に関する知識・技術につながるように学ぶ
	5	・脳卒中後遺症・高血圧・糖尿病 ・精神障害 ・視覚・聴覚障害	
	6	医学の基礎知識 在宅看護の基礎知識	
	7	人体の構造と機能 ・人体の構造	
	9	・各器官の構造とはたらき 消化器系 呼吸器系	
	10	血液と循環器系 感覚器系 泌尿器・生殖器系 代謝・体温 内分泌系 神経系	
	11	・病気のなりたち 薬物と薬理 薬物の基礎知識 薬物の適用	
二 学 期	12	感染と免疫 ・病原微生物 ・免疫	人間の心理に関する基礎知識を学ぶ
	1	生活と健康 ・心の働きと健康 ・個人・集団の健康と生活	
三 学 期	2		
	3		

教科名	科目名	履修学年	履修区分	単位数
国語科	現代文(C0選択群)	3年次	選択	4

科目の目標	近代以降の優れた文章や作品を読解し鑑賞する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで表現し読書することによって人生を豊かにする態度を育てる。
使用教科書	新現代文(大修館書店)
副教材など	新版 必携国語 漢字・一般常識・文学(第一学習社) 入試頻出 現代文の重要知識(桐原書店)
授業方法および形態	<ul style="list-style-type: none"> ・C0群選択者で行う。 ・4単位時間のうち1単位時間は問題集「新版 必携国語」を使って演習を行う。 ・「入試頻出 現代文の重要知識」の指定された範囲の小テストを行う。
授業評価の方法	定期考査、小テスト、提出物、出席、興味・関心・意欲等を総合的に判断して評価する。
定期考査	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の範囲については、授業の中で取り扱った内容から出題する。 ・副教材の範囲については、授業や宿題、小テストで取り扱った範囲から出題する。
履修上の注意	特になし
教科担当より一言	<ul style="list-style-type: none"> ・提出物は締め切りを守ること。 ・ノートを用意し、ルーズリーフは使わないこと。 定期考査の前後にノート検査を行う。 ・意味調べ等、予習をきちんとすること。

学期	月	学習内容	課題等
一 学 期	4	随想 「止まることを恐れない」神津カンナ 問題演習	筆者のものの見方、感じ方を正しく読み取る。
	5	小説 「ナイン」井上ひさし 問題演習	登場人物の心情を読み取り、感想を書く。
	6	評論 「逆さに地図を眺めてごらん」小松左京 問題演習	筆者の主張を読み取り、自分なりの意見を持つ。
二 学 期	7	詩 「発車」吉原幸子「僕はまるで違って」黒田三郎 問題演習	象徴を読み取り、作品を味わう。
	9	小説 「春愁」三浦哲郎 問題演習	登場人物の心理を読み取り、自分の問題として考えてみる。
	10	随想 「悲しむ」五木寛之 問題演習	筆者の考え方を読み取り、感じたことをまとめる。
	11	評論 「戦後その精神風景」谷川俊太郎 問題演習	論理の展開に従って筆者の主張を読み取る。
	12	小説 「TUGUMI」吉本ばなな 問題演習	登場人物の心理を読みとり、作品を味わう。
三 学 期	1	小説 「高瀬舟」森鷗外 問題演習	テーマについて考える。作者の文学史的な位置を調べる。
	2		
	3		

教科名	科目名	履修学年	履修区分	単位数
数学科	数学 (C0選択群)	3年次	選択	4

科目の目標	「数学」に続く内容として、指数関数や三角関数、図形と方程式および関数の値の変化について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を育てる。また、看護・医療系専門学校や一般各種専門学校、就職希望者を対象とする授業であるため、数学・Aの復習も行い、受験に対応できる能力を養う。
使用教科書	改訂版 高等学校 新編 数学 (数研出版)
副教材など	看護・医療系受験のための 数学 Aの解き方 エコノミー版 正高社編集部編
授業方法および形態	副教材を利用し、授業を進めていく。 例題を説明した後、練習問題を生徒に解かせ、板書させ、解説を行う。 小テストを随時行い、内容の定着を図る。 定期的に課題を与え、基礎力・応用力を養っていく。
授業評価の方法	定期考査と観点別評価(平常点)を統合する。観点別評価とは授業中の態度(出席状況、私語、忘れ物等)、小テスト、課題の提出状況等から、意欲・関心・態度を総合的に判断するものである。観点別評価は、課題・ノート検査等により総合的に判断する。
定期考査	授業の進んだ範囲より出題する。 (授業中に配布したプリント、課題等も含む)
履修上の注意	特になし
教科担当より一言	1・2年の復習をきちんとしておくこと。 課題の提出日を守ること。 ノートをきちんと整理しておくこと。

学期	月	学習内容	課題等	
一 学 期	4	第5章 数と式 17 整式の計算 18 分数式 19 実数 20 式の値 21 恒等式 22 等式・不等式の証明 23 命題 24 整数問題	問題集 プリント	
	5			
	6	第1章 2次関数 1 1次関数 2 2次関数 3 2次関数の最大・最小 4 2次関数のグラフと方程式・不等式 5 いろいろな問題		問題集 プリント
	7			
	9	第2章 三角比 6 三角比 7 正弦定理・余弦定理 8 面積 9 三角比と図形		
	10	第3章 個数の処理 10 集合 11 場合の数 12 順列 13 組み合わせ		
	11	第4章 確率 14 確率 15 独立試行の確率 16 期待値		
	12	第6章 数列 25 等差数列 26 等比数列 27 いろいろな数列 28 漸化式と数学的帰納法 29 二項定理	問題集 プリント	
	1	総復習		
	2			
3				

教科名	科目名	履修学年	履修区分	単位数
芸術科	器楽(C0選択群)	3年次	選択	4

科目の目標	音楽理論・ソルフェージュ・音楽史などを学習し、音楽の専門的な能力の育成を図り、得意な楽器での豊かな演奏表現能力を高める。
使用教科書	
副教材など	音楽理論 プリント CD VTR 楽器など
授業方法および形態	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽理論を専門的に学習する。 ・視唱力や視奏力は高め、初見能力を伸ばす。 ・ソルフェージュ活動をすることで音感能力を伸ばす。 ・音楽史を知ること、作曲家や音楽の時代背景を理解し、表現に生かす。
授業評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・個人指導を中心に、目標を与え、達成度合いで評価する。 ・随時、確認テストを行う。 ・観点別(関心・意欲・態度) 音楽に対する主体性・自立性
定期考査	<ul style="list-style-type: none"> ・演奏・歌唱などの実技などを行う。 ・理論や鑑賞などでは、確認テストを実施する。
履修上の注意	
教科担当より一言	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽大学や短大への進路希望を実現するための力を伸ばしましょう。 ・楽器に興味を持ち、基本から学習したい人も歓迎します。

学期	月	学 習 内 容	課 題 等	
一 学 期	4	音楽理論、ソルフェージュを基本から学習 音楽理論		
	5	楽譜について 音名 音符と休符 拍子とリズム 音程		
	6	音階と調 音楽標語 ソルフェージュ		
	7	視唱 聴音		
	二 学 期	9		楽器演奏 自分が得意とする楽器の演奏技術向上 ピアノ、ギター、吹奏楽器など。
		10		合奏演奏 ボーカル、ギター、ドラム、ピアノ、キーボードによる合奏。
		11		課題研究 学期に1テーマの課題研究を行い、発表する。
三 学 期	12			
	1			
	2			
	3			

教科名	科目名	履修学年	履修区分	単位数
芸術科	絵画(C0選択群)	3年次	選択	4

科目の目標	<p>1. 美術系大学に進学を希望する生徒に対し、受験に必要なデッサン力を身に付けさせる。</p> <p>2. 美術系大学に進学はしないが、専門的な学習をしたい生徒に対して、生徒各自が希望する絵画、デザイン、彫塑、工芸等の制作内容に応じた指導を行う。</p>
使用教科書	美術 表現と技法(日本文教出版)
副教材など	
授業方法および形態	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の内容、目標についての説明 (10) ・ 実技 (70) ・ 後片づけ、批評 (20)
授業評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進学希望の生徒については、デッサン力の向上の度合を評価する。 ・ 専門的な学習を希望する生徒については、それぞれの制作した作品を評価する。
定期考査	・ 学科試験は行わず、学期中制作した作品について評価する。
履修上の注意	・ 美術系大学に進学を希望する生徒、または美術、美術以外に専門的な学習を希望する生徒に履修してもらいたい。
教科担当より一言	<p>美術系大学に進学を希望する生徒は、必ず履修して下さい。2年から引き続き履修する生徒については、今まで、ほとんど合格しています。</p> <p>また、美術に興味のある生徒はぜひ履修して下さい。</p>

学期	月	学習内容	課題等
一 学 期	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ オリエンテーション (1年間の学習内容、希望調査) ・ 各自の年間計画の作成 	
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ デッサン No 1 ・ 作品制作 No 1 (アイデアスケッチ) 	
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・ デッサン No 2 ・ 作品制作 No 1 	
二 学 期	7	<ul style="list-style-type: none"> ・ デッサン No 3 ・ 作品制作 No 1 (完成) 	
	9	<ul style="list-style-type: none"> ・ デッサン No 4 ・ 作品制作 No 2 (アイデアスケッチ) 	
	10	<ul style="list-style-type: none"> ・ デッサン No 5 ・ 作品制作 No 2 	
三 学 期	11	<ul style="list-style-type: none"> ・ デッサン No 6 ・ 作品制作 No 2 	
	12	<ul style="list-style-type: none"> ・ デッサン No 7 ・ 作品制作 No 2 (完成) 	
	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ デッサン No 8 ・ 作品制作 No 3 (アイデアスケッチ) 	
三 学 期	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ デッサン No 9 ・ 作品制作 No 3 	
	3	作品の完成、合評会、年間の反省	

教科名	科目名	履修学年	履修区分	単位数
芸術科	陶芸(C0選択群)	3年次	選択	4

科目の目標	形を作る喜びを感じる。 技術が身に付くことを実感する。 良い器とは何かを識る。
使用教科書	陶芸入門
副教材など	
授業方法および形態	・ ろくろ成形と手びねり成形の2班に分かれて実技を行う。
授業評価の方法	・ 焼き上がった作品で評価をする。
定期考査	・ 行わない。
履修上の注意	・ 土を大切に扱い、汚れても良い服装で授業を受ける。
教科担当より一言	・ 日頃、何気なく使っている陶器の理解と、その良さを見分ける目を身に付けてほしい。

学期	月	学習内容	課題等
一 学 期	4	・ オリエンテーション ・ 土の扱い方、片づけ方の確認	
	5	・ ろくろ成形、ひも作り、板作り ・ 窯焚き作業	
	6	・ 土作り ・ ろくろ成形(湯のみ、鉢を作る)	
二 学 期	7	・ 窯焚き作業 (素焼き、釉掛け、窯詰め、本焼き、窯出し)	
	9	・ ろくろ成形(皿を作る)	
	10	・ 窯焚き作業	
三 学 期	11	・ ろくろ成形(袋物を作る)	
	12	・ 窯焚き作業 ・ ろくろ成形(一人生活の為の器作り)	
三 学 期	1	・ 窯焚き作業	
	2		
	3		

教科名	科目名	履修学年	履修区分	単位数
英語科	英語 (D0選択群)	3年次	選択	4

科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える養う。 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる
使用教科書	ACORN
副教材など	Unicorn 英和辞典
授業方法および形態	指導形態：一斉指導・ペア・ワーク・グループ・ワーク リスニング、発音練習、リーディング、黙読、 文法説明・読解・ワークシートの記入 ・インターネットを使用した授業
授業評価の方法	定期考査・出席状況・ワークシート・授業態度・予習状況 意欲・関心等を総合的に判断して評価する。
定期考査	進度に沿った内容のテストを行う
履修上の注意	なし
教科担当より一言	<ul style="list-style-type: none"> ”何でも見てみよう” という気持ちで様々なテーマについて学びましょう！ リスニングも内容が難しくなっています。より、現実味あふれる内容です。 去年は学習ノートがありました。今回はありません。自分でノートを作りましょう。 英文を長く書く場面が多くなります。与えられた文を英語にするだけでなく、短くても自分の考えを英語にしてみるところから始めましょう。 週に2時間だけなので、必ず予習をして授業を受けましょう

学期	月	学習内容	課題等
一 学 期	4	1課 ・ 地球の地形・気候について表現を学ぶ ・ 世界の地域の特徴を知る ・ 比較級・最上級の表現 (the most+最上級 場所の紹介をする	毎回予習調べ・忘れ物調べを実施します。 1課の最後の英作文は提出後、発表します。 週末課題として、課のまとめプリントを配布します。 物の説明をするダイアログを作り発表する 第1回英単語コンテスト 書き直しプリント 週末課題：将来の自分の夢について英作文を書く。
	5	2課 ・ 世界の料理について学ぶ ・ レストランでの注文をする表現を学ぶ ・ S+V・・・ing (~しながら) ・ パーティーのお知らせをつくってみる。	
	6	3課 ・ 各国の言葉について学ぶ ・ カタカナ英語について ・ 関係代名詞 what+S+V の表現 ・ 過去分詞の形容詞用法	
	7	4課 ・ 地球温暖化について学ぶ ・ 英語でその仕組みについて学ぶ ・ 温暖化を防ぐための手だてを考える ・ It is said that ~	
二 学 期	9	5課 ・ 水泳に関する英語の用語を学ぶ。 ・ インタビューの聞き取り練習 ・ 過去完了 had + pp ・ 仮定法	ペアでジェスチャーとその説明をする対話文を作る。 週末課題はものが出来るまでの手順を英語で書く 第2回英単語コンテスト 課題「東鷹高等学校」の紹介を英語で書く 課題は条件英作をする 第3回英単語コンテスト本文の主人公の生き方について日本語で書く
	10	Reading 内容把握を中心に英問英答を進める。 6課 ・ 感情の英語表現を学ぶ 7課 ・ ものづくりについて、道具を表す英語との作り方の説明文を読む ・ not A but B, ~, which	
	11	8課 ・ 動物の歴史について学ぶ ・ グラフを読みとり英語で表現する。 9課 ・ 様々な国際交流を学ぶ ・ スピーチを聞き取る ・ 現在完了進行形 have+been+ing	
	12	10課 ・ 映画のジャンルについて英語で学ぶ ・ 先生と子供達の心の交流を感じ取る Reading 2 段落ごとに内容を把握する。	
三 学 期	1		
	2		
	3		

教科名	科目名	履修学年	履修区分	単位数
英語科	総合英語(D0選択群)	3年次	選択	4

科目の目標	英語という外国語を読むことで、知識や視野を広げ、母国語にはない発想や理論にふれることを目標とする。また知的好奇心を養って、「今」の世界の動向を見極め、「これから」について考える力を身につける。また、問題を解くことで語彙力や文法力はもちろん、読解力や自分を表現するためのコミュニケーション能力の育成も目指す。
使用教科書	WHAT'S UP? (桐原書店)
副教材など	辞書 補助プリント
授業方法および形態	見開き1ページで構成された全14単元の英文を読んでいく。単に本文の内容を理解するだけでなく、語彙力や文法力の育成を目指して読解していく。また、読むだけではなく単元の内容について深く知り、考えていく。そのためにも、必要であればインターネット等を利用する予定である。
授業評価の方法	中間・期末考査の成績を中心に、授業中の態度・提出物・出席等を総合的に判断して評価する。
定期考査	基本的には授業で行った内容について問うが、生徒の実態にあわせた応用問題も出題する予定である。
履修上の注意	
教科担当より一言	英語という言語を通して世界で起こっている様々な事について深く知り、考えて下さい。また予習・復習はしっかり行って授業に積極的に参加して下さい。

学期	月	学習内容	課題等
一 学 期	4	Unit 1 New Goals for Ono Shinji 小野伸二の挑戦	教材に合わせて課題を適宜与える
	5	Unit 2 Treasures of Children around the Worlds 心あたたまるもの	
	5	Unit 3 Birth of the Human Race 人類の生まれた場所	
	6	Unit 4 A Park of Art 空間のデザイン	
	7	Unit 5 Flying Insect-like Robot - Robofly ロボットの開発	
	7	Unit 6 The Cedars of Yakushima フォレスト・ウォーク	
二 学 期	9	Unit 7 For or Against? コンビニは24時間必要?	
	10	Unit 8 This Is How They Became Friends 国際遺児交流会	
	11	Unit 9 Children on the Streets in Afghanistan 国際遺児交流会	
	12	Unit 10 Working Together for Angkor Wat with the Cambodian People アンコールワットの遺跡保存・修復活動	
	12	Unit 11 GLAY Makes History in Beijing 夢をかなえる	
三 学 期	1	Unit 12 The Northwest Hawaiian islands -The Fragile Blue Sanctuary 動物たちの聖域	
	2	Unit 13 Have I Become What I Wanted to Be? いかに生きるか	
	3	Unit 14 Message to America アメリカへのメッセージ	

教科名	科目名	履修学年	履修区分	単位数
国語科	国語表現(D1選択群)	3年次	選択	2

科目の目標	国語で適切にまた効果的に表現する能力を高めるとともに、思考力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって生活を充実させる態度を育てる。
使用教科書	『国語表現 改訂版』(三省堂)
副教材など	「必携国語総合セミナー」(浜島書店) その他授業中に配布するプリントや資料
授業方法および形態	・総合生活科・D1群での選択科目です。 ・授業は講義の他、皆さんが実際に文章を書いたり、スピーチを発表したりする実技も行います。 ・教科書と副教材の「必携国語総合セミナー」は毎時間持参してください。また、プリント等の配付資料はファイルにとじるか、ノートに貼る等して、保存してください。提出後返却された課題についても同様に保存しておいてください。
授業評価の方法	中間・期末の定期考査、出席の状況、課題の提出状況、小テスト、発表へ取り組む態度と発表の内容なども含め、さまざまな観点から総合的に評価します。
定期考査	授業の進度に沿った内容で行います。教科書だけでなく、副教材、小テスト、授業中配付した資料やプリントからも出題します。
履修上の注意	特になし。
教科担当より一言	この科目は、スピーチや文章表現の課題等、定期考査以外の授業中の活動も大きく評価します。積極的かつ意欲的に取り組んでください。 また、就職や進学試験にすぐに役立つような内容にしていこうと考えています。真面目に取り組んでいけば、必ず実力が付きます。1年間、一緒にがんばりましょう。

学期	月	学習内容	課題等
一 学 期	4	『上手な聞き方・話し方 - 話しことば入門』 ・話すこと・聞くこと ・三分間スピーチ	就職や進学試験の「自己PR」を考え、スピーチする。聞く態度も養う。
	5	『ことば遣い』 ・仮名遣い・送り仮名の付け方、文体の使い分け ・履歴書を書く	履歴書の志望動機を、ことば遣いに注意して書く。
	6	『敬語』 ・尊敬語、謙譲語、丁寧語の使い分け ・模擬面接	面接ビデオを見て、模擬面接をする。
	7	『語彙を豊かに』 ・ことわざ、故事成語、類義語、対義語など	プリントで学習する。夏休みを使って調べ、覚える。
二 学 期	9	『文章の書き方 - 作文入門』 ・原稿用紙の使い方 ・文章表現の過程	原稿用紙の使い方に注意して書写する。
	10	『悪文治療法 - 文章の診断』 ・文の乱れ、文の区切り、あいまいな表現、指示語、接続語など	「社会人としての抱負」「高校生活の思い出」について作文を書く。
	11	『通信・伝達 - 相手をたいせつに』 ・手紙の書き方 ・電話対応の仕方	御礼状を書く。電話での伝言をメモする。
	12	『記録・報告・説明文 - 真実を求めて』 ・「聞き書き」の方法	友人や身近な人にインタビューを行い、冬休みにまとめる。
三 学 期	1	『感想・感動 - 心とことば』 ・創作入門 ・5W1Hを使った創作ゲーム ・自分史を書く	自分史を書く。(字数は自由)
	2		
	3		

教科名	科目名	履修学年	履修区分	単位数
数学科	数学 A (D1 選択群)	3 年次	選択	2

科目の目標	「数学」より広い内容として、数と式、平面幾何、数列またはコンピュータを用いる計算について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を育てる。また、今後、数学を学習していく上で、基本となる内容であるため、この1年間で基礎・基本をしっかり修得し、考える力を養っていく。また、就職・専門学校希望者対象であるため、進路実現のために効率よく授業を展開していく。
使用教科書	改訂版 高等学校 新編 数学A (数研出版)
副教材など	テスト式就職数学 数学・A (中部日本教育文化会)
授業方法および形態	1 年次の既習内容であるため、生徒自ら解いていき、指名し、板書させ、解説を行う。 随時、小テストを行うなど、内容の定着をはかる。また、課題プリント等で、反復練習を行う。
授業評価の方法	定期考査と観点別評価(平常点)を統合する。観点別評価とは授業中の態度(出席状況、私語、忘れ物等)、小テスト、課題の提出状況等から、意欲・関心・態度を総合的に判断するものである。
定期考査	授業で進んだ範囲から出題する。 (授業中に配布したプリントや課題も含む)
履修上の注意	特になし
教科担当より一言	1・2年の復習をきちんとしておくこと。 課題の提出日を守ること。 ノートをきちんと整理しておくこと。

学期	月	学習内容	課題等	
一 学 期	4	第1章 場合の数と確率 第1節 集合とその要素の個数 集合 集合の要素と個数	公式の活用 練習と問題を解く	
	5	第2節 場合の数 場合の数 順列	公式の活用 練習と問題を解く	
	6	円順列・重複順列 組み合わせ 二項定理	公式の活用 練習と問題を解く	
	7	第3節 確率 事象と確率 確率の基本性質 独立な試行の確率 反復試行の確率 期待値	公式の活用 練習と問題を解く	
	二 学 期	9	第2章 論理と集合 命題と条件 逆・裏・対偶	公式の活用 練習と問題を解く
		10	第3章 平面図形 第1節 三角形の性質 三角形の辺と角 三角形の外心、内心、重心	公式の活用 練習と問題を解く
		11	第2節 円の性質 円周角 円に内接する四角形 円と直線 方べきの定理 2つの円の位置関係	公式の活用 練習と問題を解く
三 学 期	12			
	1		公式の活用 練習と問題を解く	
	2			
	3			

教科名	科目名	履修学年	履修区分	単位数
芸術科	実用の書(D2選択群)	3年次	選択	2

科目の目標	<p>1 硬筆により基本的な文字構成の原理(均整、均衡、概形、分割)など知ることによって文字の美しさを知る。</p> <p>2 諸文書の形式を把握し実用的に活用できるようにする。</p> <p>3 毛筆作品制作では、日常的に生活の場における"書"に関心と興味を持つ。</p>
使用教科書	なし
副教材など	硬筆練習帳(修文館出版社)
授業方法および形態	<p>1 硬筆は、基本形・文字構成の原理などを理解し、理論的に文字の美しさを知る。</p> <p>2 色々な様式を経験し、書式を理解する。</p> <p>3 実用的な表現を活用できるようにする。</p>
授業評価の方法	<p>"努力した者が報われる"ことを基準としたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習、清書を提出 ・出席点、意欲関心点
定期考査	実施しない
教科担当より一言	<p>コンピューターの普及により人間の手で表現する場が少なくなかった。このような現代において、手でものを作る喜びや人間らしさを取り戻す喜びとして、書道が一端を担っていると思う。従って、芸術科書道では自由な発想と表現が出来ることを目標にしている。</p> <p>その中で、「実用の書」では美しい文字に触れ、日常的に抵抗無く文字を書くことを興味をもって楽しんでほしい。</p>

学期	月	学習内容	課題等
一 学 期	4	「実用の書」について 硬筆で楷書を書く 基本の点画 文字の構成 文字の概形 文字の部首 実用文字	文字のルールを理解する
	5		
	6	硬筆でかなを書く 「いろは歌」(単体) カタカナ 漢字仮名交じりの書	
	7	楷書で諸文書を書く 履歴書を書く	
二 学 期	9	楷書で諸文書を書く はがき、手紙 本文、宛名	正しい文書形式を理解する
	10	楷書で諸文書を書く 横書き 掲示物	
	11	毛筆で実用書(細字)を書く 基本練習 実用文	
	12	毛筆で年賀状を書く 年賀状の加工、揮毫	
三 学 期	1	漢字かな交じりの書 撰文 草稿 卒業記念作品の制作	卒業記念作品制作
	2		
	3		

教科名	科目名	履修学年	履修区分	単位数
外国語科	ハングル(D2選択群)	3年次	選択	2

科目の目標	ハングルの基本語彙の習得(読み、書き)と文章の読解基本的日常会話で使用する表現について学ぶことを目標とする。
使用教科書	よくわかる韓国語
副教材など	プリント、ビデオ、テープ、単語カード
授業方法および形態	ハングルの基本文字の発音と文字を習得させる。 平易な文章が読めるようにする。 簡単な日常会話ができるようにする。 韓国の文化等への国際理解を深める。 韓国の料理、映画、歌などを紹介する。
授業評価の方法	定期考査、単語テスト、提出物、出席、興味、関心、意欲等を総合的に判断して評価する。
定期考査	定期考査は授業の進度に沿った内容のテストを行う。 教材の範囲を決めて出題を行う。
履修上の注意	正しい発音の練習
教科担当より一言	復習を必ずすること。 反復学習により基礎力の充実を図る。

学期	月	学習内容	課題等
一 学 期	4	文字と発音(母音字) 文字と発音(子音字) 出会いの挨拶	韓国語で自分の名前など言う練習 日本人の名前と韓国人の名前
	5	文字と発音(母音字) 文字と発音(子音字) 激音、濃音の練習 別れの挨拶	文字を読む 名前の呼び方
	6	発音の練習、発音の連音化、音変化 感謝の挨拶	簡単な会話 文字を書く練習 文字を聞く練習
	7	文字と発音(パッチム) 発音のまとめ、音変化 すみませんの挨拶	日本、韓国の文化について話し合う。 簡単な会話。
二 学 期	9	第2課 誰のものですか、誰ですか。 これ、それ、あれ	学習確認 基本会話、文法
	10	第3課 どこにありますか。	基本会話 文法
	11	第4課 何をしますか 少し、沢山、よく、たまに、ほとんど、 全然の使い方	基本会話 韓国を知ろう
	12	第5課 デパートは安いですか 助詞の使い方	学習確認 基本会話
三 学 期	1	第6課 誕生日はいつですか 数字(1)固有数字、曜日について	学習確認 基本会話 韓国を知ろう
	2	第7課 何時ですか 数字(2)漢数字、時計の読み方	基本会話の整理 応用会話 学習確認
	3	韓国の映画を紹介	

教科名	科目名	履修学年	履修区分	単位数
理科	生物 B (E0 選択群)	3 年次	選 択	3

科目の目標	生物や生物現象について、できるだけ身近な素材を用いて観察や実験などを行い、疑問点を主体的に見いだそうとする意欲を高める。また、内容を重点的に学習させることによって基本的な概念や原理を理解させ、生物現象の仕組みを総合的に考えさせることによって科学的な自然観を育成する。
使用教科書	生物 I B (東京書籍)
副教材など	ビジュアル生物(とうほう) ステップノート(浜島書店)
授業方法および形態	一斉授業形態で行う。授業の最初に必ず前時の復習を質問または小テストで答えさせるので、大事な用語などは覚えてくること。授業の内容を研究ノートやプリント等で確認をし、基礎学力を高めていく。また、思考力を養うため授業は質問形式で進めていくので毎時間しっかり考えること。
授業評価の方法	定期考査、小テスト、実力テスト、提出物、出席、実験レポート授業態度、意欲等を総合的に判断して評価する。
定期考査	定期考査は、授業の進度に沿った内容のテストを行う。研究ノートや授業中に配布したプリントおよび実験の内容も含める。
履修上の注意	特になし。
教科担当より一言	日常生活における身近な動物、植物の話や、私たちの体のしくみについて学習していくので関心をもって考えること。また、疑問に思うことは質問をすること。生物の分野は、覚えることがたくさんあります。毎時間しっかり授業に取り組み、ただ覚えるだけではなく、意味等も関連づけながら楽しく学習しましょう。

学期	月	学 習 内 容	課 題 等
一 学 期	4	代謝と酵素について、物質の合成や分解にはエネルギー源の ATP が関係していることを学習し、代謝に深く関わる酵素の性質を理解する。	酵素が含まれている身近な物質を調べておく。
	5	呼吸について、その仕組みを理解する。 光合成の反応を理解する。また、細菌が行う光合成や窒素を含む物質の合成についても取り扱う。	化学反応式について化学の復習をしておく。
	6	刺激の受容と反応について、刺激の伝達過程を考え、受容器である目や耳の構造および働きを学習する。	各名称および、流れをしっかりと覚える。
二 学 期	7	神経について、その構造と神経伝達の仕組みを理解する。また、情報処理の中核である脊髄や脳の構造と働きを学習する。	
	9	効果器である筋肉の構造と収縮の仕組みについて学習する。 動物の行動が示す意味や役割を理解する。	身近な動物の行動を観察する。
	10	恒常性の維持について、血液を含む体液の役割や、体の調節を行う腎臓の構造と働きおよびホルモンの作用を学習する。	ホルモンの名称や分泌される場所、働きをしっかりと覚える。
三 学 期	11	体内の調節をする自律神経系の作用について具体例を挙げることによって理解する。また、血糖量の調節や体温の調節についても取り扱う。	調節の仕組みを把握する。
	12	植物の反応と調節について、色々な植物ホルモンの作用を学習する。 動物の生活では、個体の集団について相互関係を考える。	身近な植物の観察をする。
三 学 期	1	植物群落の移り変わりや生態系を学習する。 地球環境とその保全については環境問題について考える。	環境問題について新聞等を読み自分の意見をまとめる。
	2		
	3		

教科名	科目名	履修学年	履修区分	単位数
芸術科	実用の書(E0選択群)	3年次	選択	3

科目の目標	<p>1 硬筆により基本的な文字構成の原理(均整、均衡、概形、分割)など知ることによって文字の美しさを知る。</p> <p>2 諸文書の形式を把握し実用的に活用できるようにする。</p> <p>3 毛筆作品制作では、日常的に生活の場における”書”に関心と興味を持つ。</p>
使用教科書	なし
副教材など	硬筆練習帳(修文館出版社)
授業方法および形態	<p>1 硬筆は、基本形・文字構成の原理などを理解し、理論的に文字の美しさを知る。</p> <p>2 色々な様式を経験し、書式を理解する。</p> <p>3 実用的な表現を活用できるようにする。</p>
授業評価の方法	<p>”努力した者が報われる”ことを基準としたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習、清書を提出 ・出席点、意欲関心点
定期考査	実施しない
教科担当より一言	<p>コンピューターの普及により人間の手で表現する場が少なくなかった。このような現代において、手でものを作る喜びや人間らしさを取り戻す喜びとして、書道が一端を担っていると思う。従って、芸術科書道では自由な発想と表現が出来ることを目標にしている。</p> <p>その中で、「実用の書」では美しい文字に触れ、日常的に抵抗無く文字を書くことを興味をもって楽しんでほしい。</p>

学期	月	学習内容	課題等
一 学 期	4	「実用の書」について 硬筆で楷書を書く 基本の点画 文字の構成 文字の概形	文字のルールを理解する
	5	文字の部首 実用文字	
	6	硬筆でかなを書く 「いろは歌」(単体) カタカナ 漢字仮名交じりの書	
二 学 期	7	楷書で諸文書を書く 履歴書を書く	正しい文書形式を理解する
	9	楷書で諸文書を書く はがき、手紙 本文、宛名	
	10	楷書で諸文書を書く 横書き 掲示物	
三 学 期	11	毛筆で実用書(細字)を書く 基本練習 実用文	美しい掲示物の表現
	12	毛筆で年賀状を書く 年賀状の加工、揮毫	
三 学 期	1	漢字かな交じりの書 撰文 草稿	卒業記念作品制作
	2	卒業記念作品の制作	
	3		

教科名	科目名	履修学年	履修区分	単位数
商業科	ワープロ実習（E0選択群）	3年次	選択	3

科目の目標	IT（情報技術）を活用した経営の情報化や企業を取り巻く環境は大きく、かつ急激に変化しています。 それに対応していくために基本的な技能適応の能力や特定業務の習熟、実務に必要な機能の能率の向上を図り、企業に求められる人材を育成するとともに、基礎的な技能や適切な経営活動の基本となることを学ぶことを目標とする。
使用教科書	ワードプロセッシング 三訂版（一橋出版）
副教材など	Excelで学ぶ 全商情報処理検定テキスト
授業方法および形態	毎時間ごとに Word・Excel・一太郎で作成したものを印刷して提出すること。
授業評価の方法	定期考査、提出物、出席、授業態度、関心・意欲などを総合的に判断して評価する。
定期考査	定期考査は授業の進度に沿った内容のテストを行う。 副教材の範囲を決めて出題する。
履修上の注意	
教科担当より一言	文書を正確・迅速にタッチメソッドで打つことを条件とするので授業には前向きに取り組むこと。 一般常識や日本語の文章を理解する力、表現する力など企業が求める適応能力を身につけてもらいたい。

学期	月	学習内容	課題等
一 学 期	4	キーの基本操作と文字の変換 ハードウェアの基礎知識 数値、文字の入力	タッチメソッドを完全にマスターすること。 EXCELに興味を持って取り組むこと。多くの関数が出てくるので、少しずつ覚えましょう。
	5	文書の入出力、通信文の入力 SUM 関数、行・列の削除・挿入・移動	
	6	速度練習 通信文の作成練習 文書編集機能 AVERAGE 関数	
	7	速度練習 通信文の作成練習 罫線 MAX・MIN・IF 関数	
二 学 期	9	各自の能力に応じて練習 RANK 関数 グラフの作成	全体のイメージを把握して、体裁の良い文書を作成しましょう。 検定試験を受験する生徒は、練習を重ねて合格を目指してください。
	10	グラフの種類	
	11	ワークシートの活用	
	12	データの並べ替え	
三 学 期	1	VLOOKUP・HLOOKUP・INDEX 関数	
	2		
	3		